



◆其の百十七

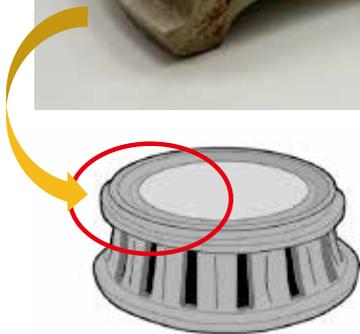
高級な文房具「円面硯」

現在、一般的な硯(すずり)といえば、石製の黒くて四角いものが主流ですが、飛鳥・奈良時代は陶製の硯が主流でした。

その頃、文字の読み書きができたのは、貴族、役人などの限られた人たちだけでした。そのため文字を書く道具も貴重な品であったと考えられます。その中でも硯は円



▲市内出土の円面硯



▲円面硯イメージ図

形・方形・鳥・亀・獣などさまざまな形がありました。また、日常使う須恵器を再利用した硯(転用硯)もありました。

転用硯は比較的多く出土しており、おそらく下級の役人などが使用したのでしょう。一方、出土例が少なく珍しいのが、「円面硯」です。円面硯は、文字通り円形の硯で、硯の下の土台は透かしを施したもので、動物の脚をモチーフにしたものなどがあり、手が込んだ造りの高級品で、上級の役人や貴族たちが使用したものと考えられます。このようなデザイン性に富んだ形の硯は使い手の経済力そのものを表しているのかもしれませんが。

関文化財課

